

馬子
作
門
記

馬子
作
門
記



菅原部

清和の御

菅原

同

菅原方 女系

小橋大納言

大納言

修理大進

藤壺女御

女子

ワカと 源氏の方より軍上り

院の子といはれどもさうはたはさしめ給ふは
オヤとわらへどもいかにさうのさうかたは
やとさうのさういふまゝ女系といふ
中に女三はあまたはあつたはつた
あつたはつたはつたはつたはつた
なつたはつたはつたはつたはつた
はつたはつたはつたはつたはつた

院ハ朱雀院の御方

女系といふ人の大納言

あひやうとあつちをたてまつりてあひやう
あつちをたてまつりてあひやう

あつちをたてまつりてあひやう

あつちをたてまつりてあひやう

あつちをたてまつりてあひやう

あつちをたてまつりてあひやう

あつちをたてまつりてあひやう

あつちをたてまつりてあひやう

あつちをたてまつりてあひやう

あつちをたてまつりてあひやう

あつちをたてまつりてあひやう

あつちをたてまつりてあひやう

あつちをたてまつりてあひやう
あつちをたてまつりてあひやう

あつちをたてまつりてあひやう

あつちをたてまつりてあひやう

あつちをたてまつりてあひやう

あつちをたてまつりてあひやう

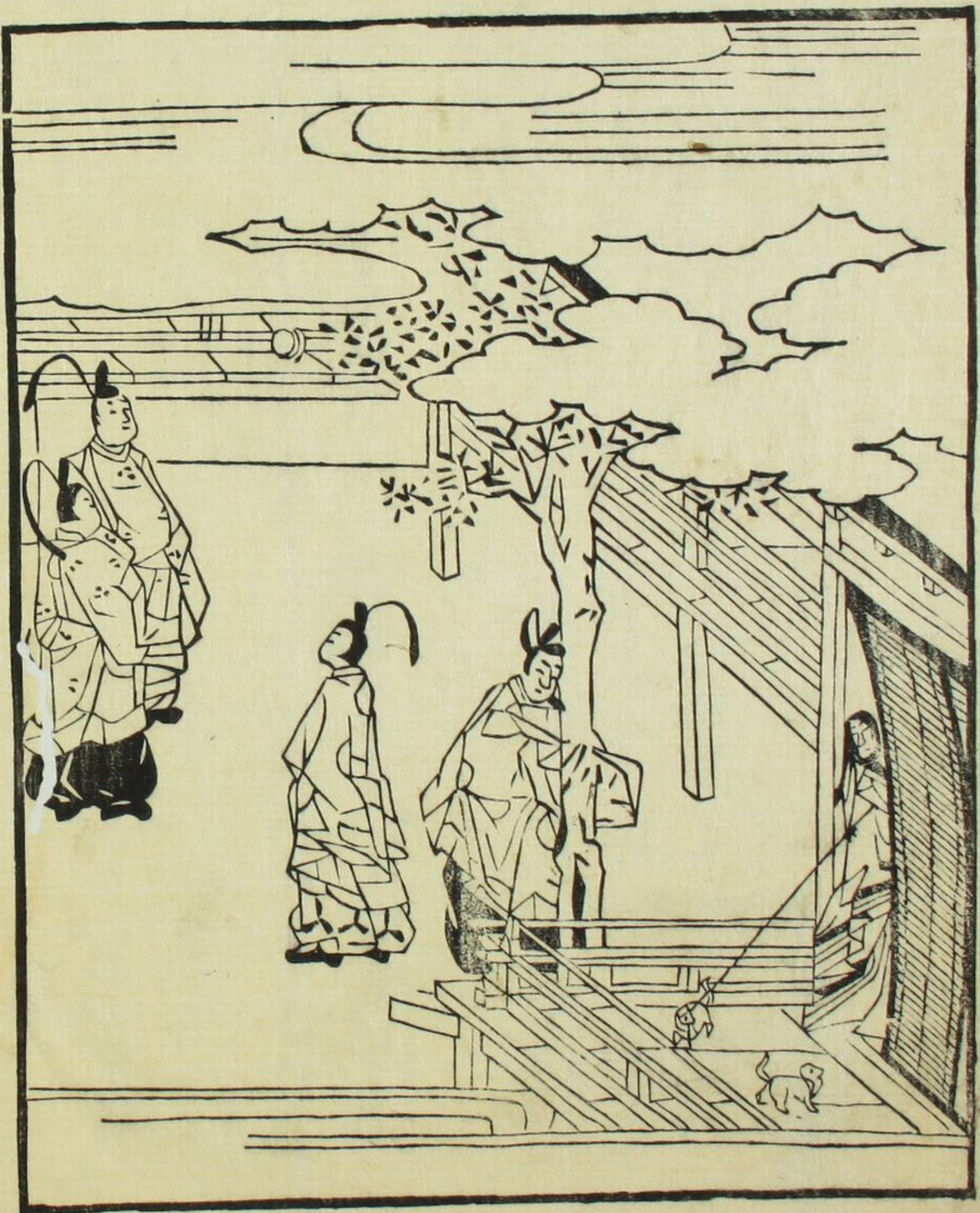
あつちをたてまつりてあひやう

あつちをたてまつりてあひやう

あつちをたてまつりてあひやう

あつちをたてまつりてあひやう

あつちをたてまつりてあひやう



大物オモモノの表ウラひの車クルマも世帯セダイの
 いふまじな花ハナもいづれもしらぬ
 さうなわさく縁縁がらうとせら
 夕タタ子子にねぐらゝいふも
 いそぐ花ハナのいろりあけい
 くの志ココロねいひはかたけんえり
 しそふてあはれがらうとせら
 けさうこころいふも
 いふまじな花ハナもいづれもしらぬ
 あいそぐらうとせら

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. It features similar fluid, connected lettering and spans approximately 12 lines.

あつたしきとおのふりふりふりふりふり
乃おまににたつてたつてたつてたつて
ときさきさきさきさきさきさきさき
ウチのあゝ神あゝもももももももも
さくさくさくさくさくさくさくさく
せんせんせんせんせんせんせんせん
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

さうしてあつたしきとおのふりふりふり
くさくさくさくさくさくさくさくさく
のふりふりふりふりふりふりふりふり
くさくさくさくさくさくさくさくさく
てもはあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

夕暮れに宿を去るのまじき人の中
さくらく夕暮れをしのびて三宿を去る
乃ちあれ昔のまじき宿を去るのまじき
よのくに宿を去るのまじき宿を去る
こゝろは宿を去るのまじき宿を去る
と宿を去るのまじき宿を去る
宿を去るのまじき宿を去る
宿を去るのまじき宿を去る
宿を去るのまじき宿を去る
宿を去るのまじき宿を去る

一 夕暮れに宿を去るのまじき人の中

夕暮れに宿を去るのまじき人の中
さくらく夕暮れをしのびて三宿を去る
乃ちあれ昔のまじき宿を去るのまじき
よのくに宿を去るのまじき宿を去る
こゝろは宿を去るのまじき宿を去る
と宿を去るのまじき宿を去る
宿を去るのまじき宿を去る
宿を去るのまじき宿を去る
宿を去るのまじき宿を去る
宿を去るのまじき宿を去る
宿を去るのまじき宿を去る



一葉のまふらんまふらん
 おうしんまふらんあたふらん
 可あふらんまふらん
サハハカハ本のなま

まふらん
 まふらんまふらん
まふらん
 まふらんまふらん

まふらんまふらん
 まふらんまふらん
 まふらんまふらん

まふらん
 まふらんまふらん
 まふらんまふらん
 まふらんまふらん
 まふらんまふらん

并々

いふやうな事なるといふは
まじりけりまじりけり
お月がうららかに照らす
おとろけたるはなれど
そのりれはゆりのゆり
そよのそよあはれ
こころのこころ
かえりていふは
人をいふは

いふえ 湯平のそよ 二文

いふ^朱は^朱いふ^朱は^朱いふ^朱は^朱

いふは^朱いふは^朱いふは^朱いふは^朱

いふは^朱いふは^朱いふは^朱いふは^朱

いふは^朱いふは^朱いふは^朱いふは^朱

いふは^朱いふは^朱いふは^朱いふは^朱

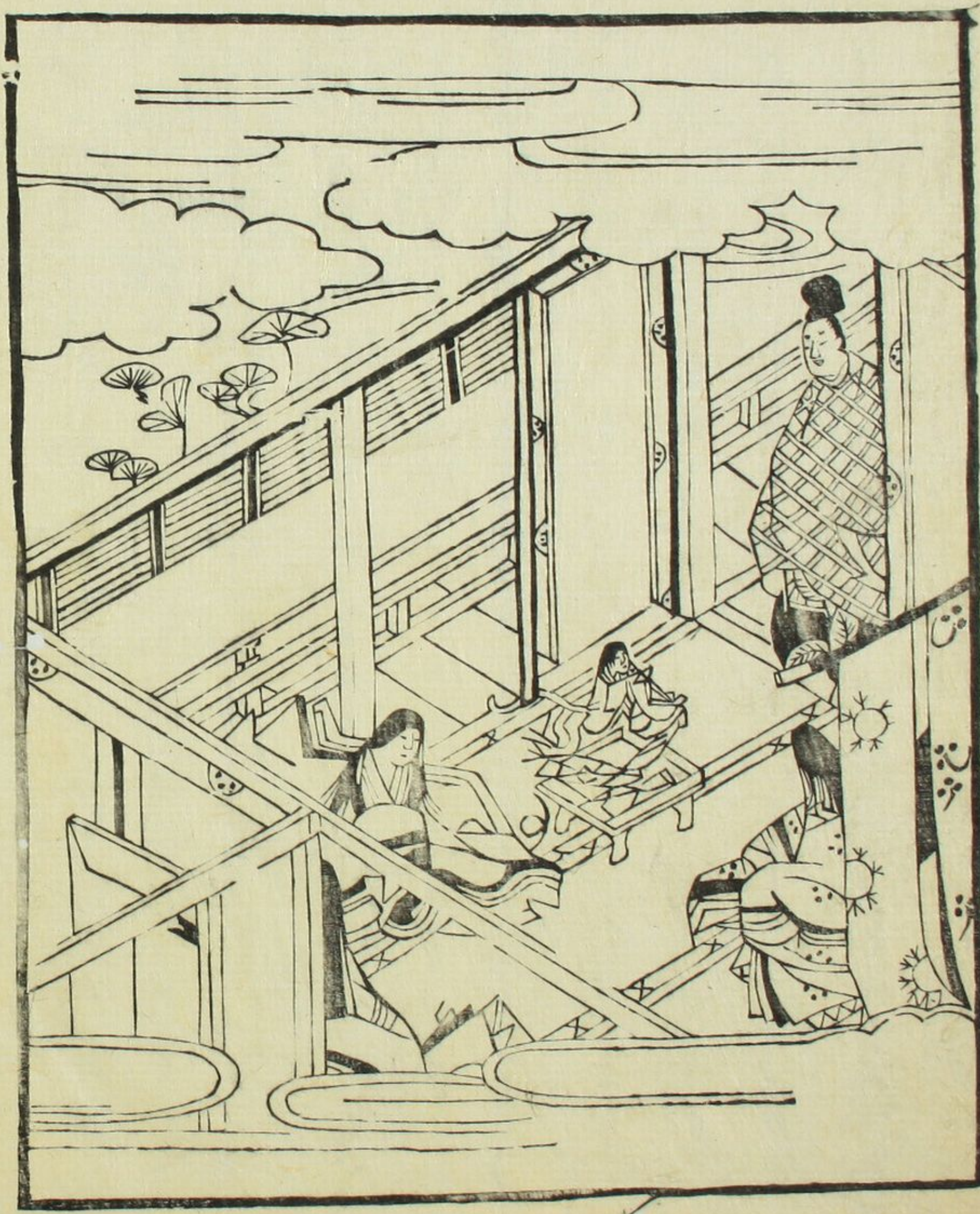
いふは^朱いふは^朱いふは^朱いふは^朱

いふは^朱いふは^朱いふは^朱いふは^朱

いふは^朱いふは^朱いふは^朱いふは^朱

いふは^朱いふは^朱いふは^朱いふは^朱

いふは^朱いふは^朱いふは^朱いふは^朱



源

うきうきとわらわをいへりて
 こゝろをいへりていへりていへりて
 秋のゆきの物あはれきり小太郎一葉のきり
 ありていへりていへりていへりていへりて
 すゝきいへりていへりていへりていへりて
 女二いへりていへりて

廿二

あはれ物いへりていへりていへりて
 人いへりていへりていへりていへりて
 ありていへりていへりていへりていへりて
 ありていへりていへりていへりていへりて
 ありていへりていへりていへりていへりて

おひそくさきほりして都より こゝろ 西体本

露一げさむじりれやどよみかしの

秋一かえりむらむらさきうら

古 さこがえりまきしむらさきうらむら

むらさきしなるむらさきうらむら

むらさきのちかみのむらさきうらむら

て中うらむらさきうらむらさきうら

むらさきうらむらさきうらむらさき

むらさきのちかみのむらさきうらむら

かえりむらさきうらむらさきうら

むらさきのちかみのむらさきうらむら

むらさきうらむらさきうらむらさき

むらさきのちかみのむらさきうらむら

むらさきうらむらさきうらむらさき

むらさきのちかみのむらさきうらむら

むらさきうらむらさきうらむらさき

むらさきのちかみのむらさきうらむら

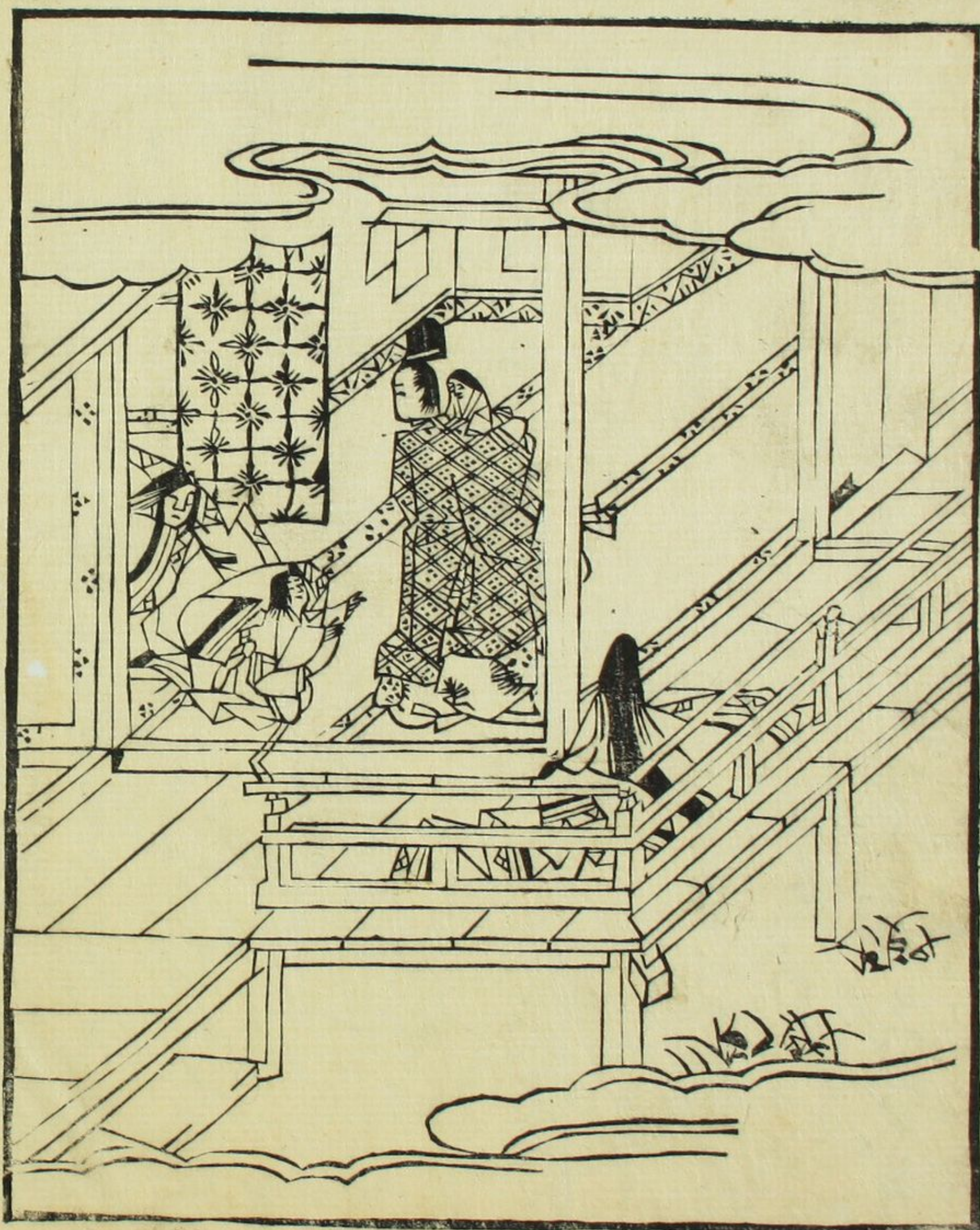
むらさきうらむらさきうらむらさき

むらさきのちかみのむらさきうらむら

むらさきうらむらさきうらむらさき

むらさきのちかみのむらさきうらむら

むらさきうらむらさきうらむらさき



すしりー 源みずカ 夕金方女三カ

なまらららすれ花のいろに 入返女三の姫まに
 おふりらぬしほふおくれゆをさしと錦錦
 乃らこぞひけのまんうかけてまろこの花
 うあわささけけやうあくひやくたんて
 けらうけうあささきりいおくかせさよ
原 ちらうあおあちあうてあしらきりあきて
 露れわうさけけあささ
女三 ちらうあささくちらうあささあささあささ
 ちらうあささくちらうあささあささあささ
 八月十五あささあささあささあささあささ

常々大ねあつても多ねてゆく
まう福の冷氣はくりに成り

や 色のどろりたるはるるともみつあそ

まのこころれせのむねあつ月

原 月影のあつても井にさるる

わがやどいづれむをわらわ

クノ身 海の中

クノ身はくろくまのまのあつ人
まのあつたつてむねあつとさるる
まのあつたつてむねあつとさるる

大ねあつても多ねてゆく
八月十のころむねあつとさるる
まのあつたつてむねあつとさるる
まのあつたつてむねあつとさるる

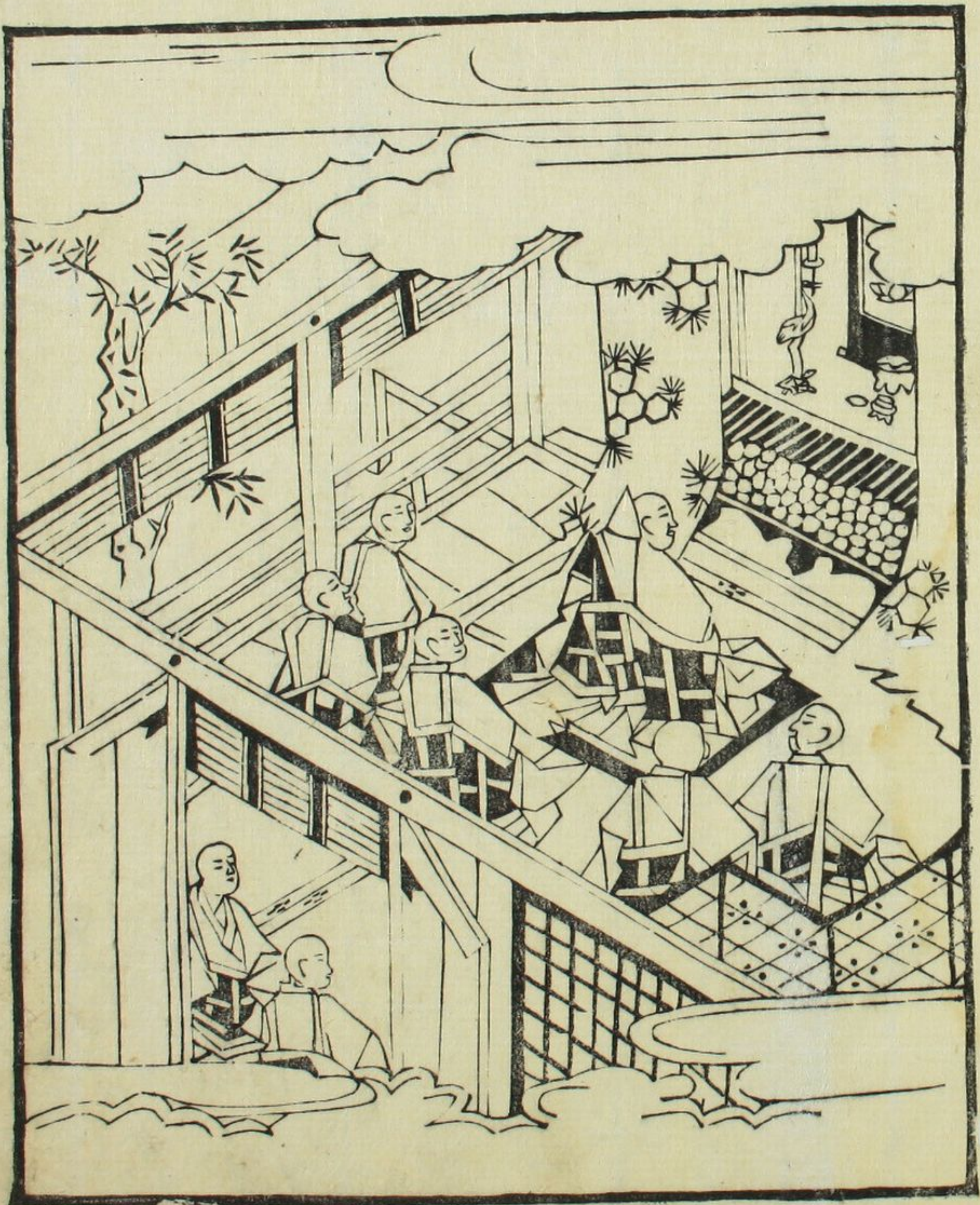
まのあつたつてむねあつとさるる
まのあつたつてむねあつとさるる
まのあつたつてむねあつとさるる

まのあつたつてむねあつとさるる
まのあつたつてむねあつとさるる
まのあつたつてむねあつとさるる

午のり 湯を二升

しんぎのとりしんぎのなわあるこ
まふをうておこるのまきれあつこの人
とあつゆりぬを年ころのゆき^{ゆき}えか
せろ^かは^か千部^か二部^かまて^かる
ゆり^かる^かあ^かは^かさ^かと^かわ^かる^か
やうい^かし^かし^かの^か

お^かの^かひ^かあ^かの^かか^から^か
た^かま^かが^かひ^かあ^かの^か
ま^かま^かご^から^かあ^かの^か
の^かせ^から^かあ^かの^か



大お

けしあふき書上ほくらんこつりて
花くらんれいしんそはらつて

ひびくはなさいしんそはら

つるくはなさいしんそはら
あふき書上ほくらんこつりて

あふき書上ほくらんこつりて

あふき書上ほくらんこつりて

あふき書上ほくらんこつりて

あふき書上ほくらんこつりて

あふき書上ほくらんこつりて

あふき書上ほくらんこつりて

深

けしあふき書上ほくらんこつりて

人こつりてあふき書上ほくらんこつりて

あふき書上ほくらんこつりて

あふき

あふき書上ほくらんこつりて

あふき書上ほくらんこつりて

あふき書上ほくらんこつりて

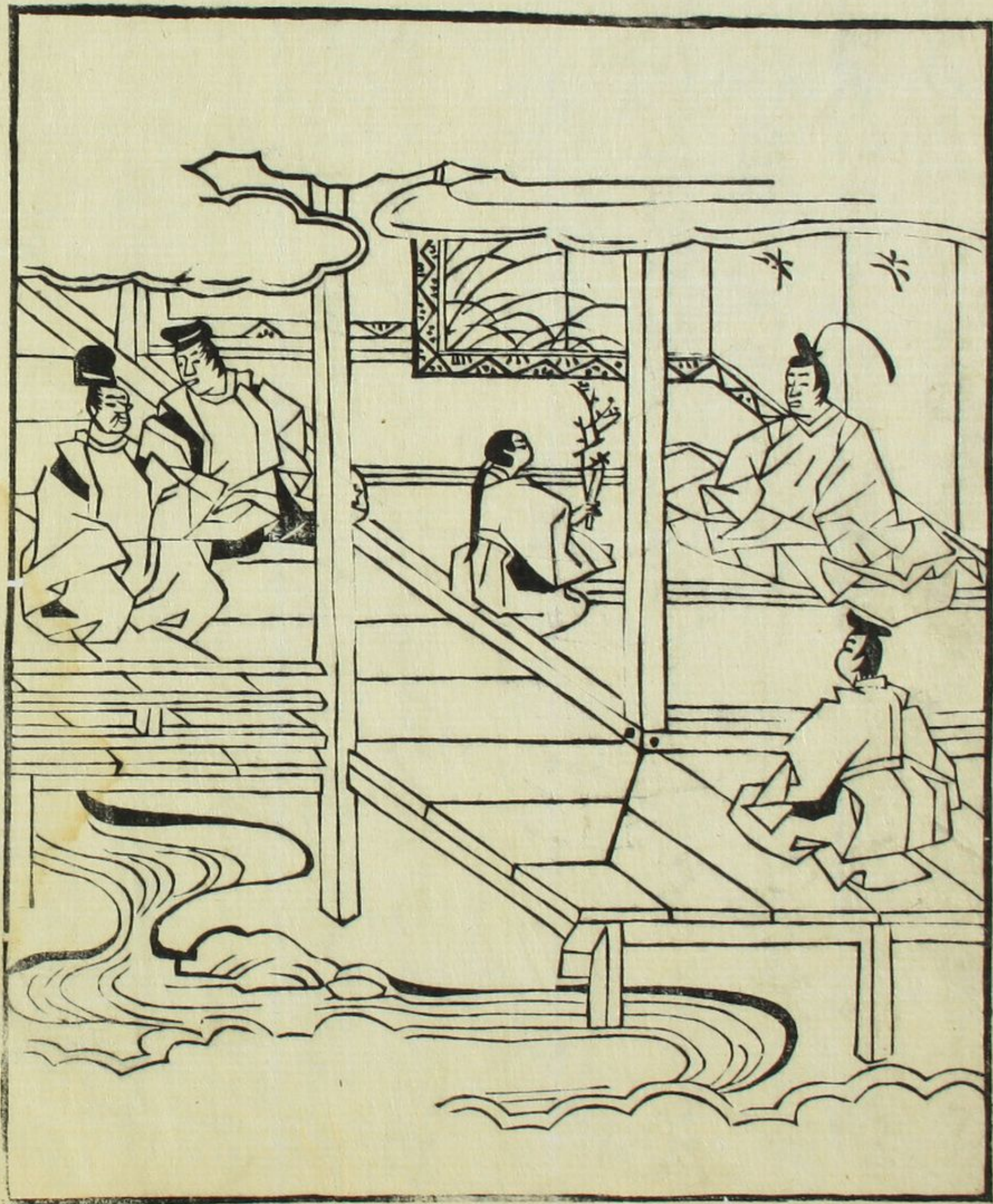
あふき書上ほくらんこつりて

あふき書上ほくらんこつりて

あふき書上ほくらんこつりて

あふき書上ほくらんこつりて

あふき書上ほくらんこつりて

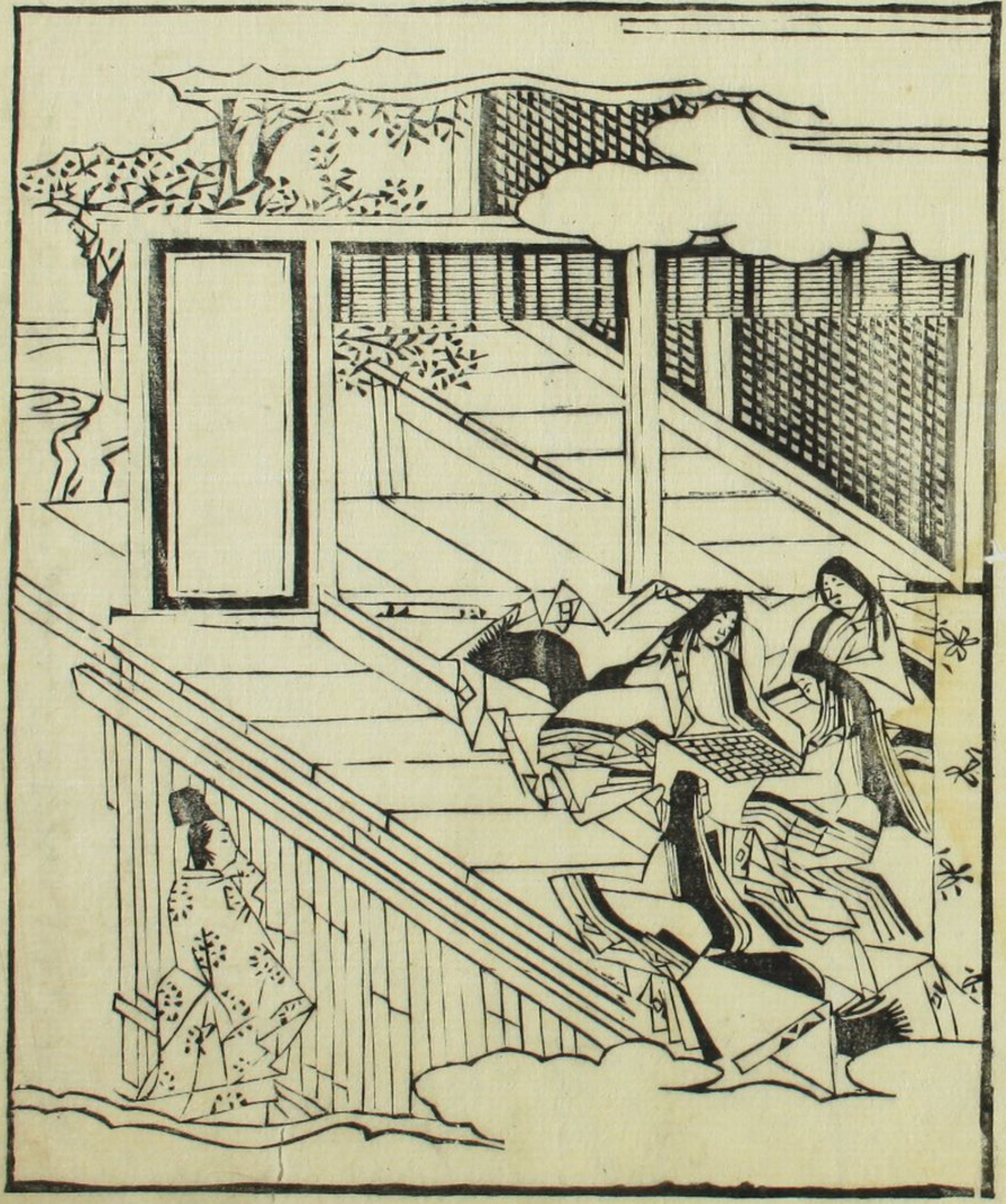


大御

ちりぬれあつるまがら神よきは
 花よえさるゝのふもやちりさん
 毛のまがみあつるす宿にさちゆん
 いりさつるやん乃さつあん
 大御さつるのまがみあつるまがら

たけり

ちりぬれあつるまがら神よきは
 花よえさるゝのふもやちりさん
 毛のまがみあつるす宿にさちゆん
 いりさつるやん乃さつあん
 大御さつるのまがみあつるまがら



まつるがけのまゝのまゝ
 けあらる事いよのてひさひの
 うけうよをたごふしきんご
 けあらる池乃千ぎりふあつるれ
 あらうしきうしきわが
 ちぎれれちねるはく
 くののののののののののの
 けあらるれ神いあ
 右
 左



四十五

其の草のまじりたる花も
 ちりりたる花もあはれなる
 花もあはれなる花もあはれ
 なる花もあはれなる花も
 あはれなる花もあはれなる
 花もあはれなる花もあはれ
 なる花もあはれなる花も



